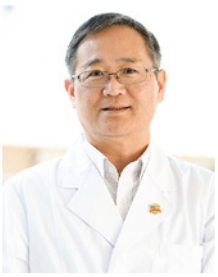
編集委員会

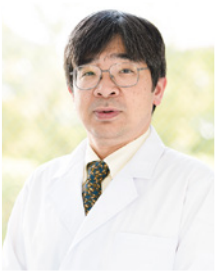
米田　博先生

梶本 宜永先生


村尾　仁先生

上杉 康夫先生

新田 雅彦先生


萩森 伸一先生

林　道廣先生

寺崎 文生先生

元村 直靖先生

津田 泰宏先生

中野 隆史先生（会計）

大阪医科大学医師会事務室（村上真理子・池田則子・神門せつ子）

編集後記

今年の1月から医学教育センター教員となりました。現在、医学教育センターでは、カリキュラム改革、アウトカム基盤教育、国際認証の受審、参加型臨床実習への転換、学生研究の導入、国際交流の活性化、国試合格率の向上、ポートフォリオやアクティブラーニングの導入、クリクラと臨床研修のシームレス化、など三兎も四兎も追っている状況です。これらの改革が成就されましたら、優秀な学生は研究や国際交流を通じて次世代をリードできるような人材に、また、下位の学生も医者になっても困らないスキルと国試に余裕を持って合格できる学力が涵養されるようになります。

当然、大学の教員の諸先生におかれましても医学教育への関わりも激変してまいります。しかし、多くの先生が忙しい臨床の場におかれている現状では、教育改革がどのような形で進行しているのかは分かりにくいと思います。そこで、少しでもご理解いただけるようにと、この座談会を企画いたしました。ご参考になれば幸いですし、ご意見やアイデアなど御座いましたら医学教育センターまでご一報いただきますようにお願い致します。

編集委員　梶本 宜永